

## 第2回まちづくり市民会議議事録

- 日 時 平成21年5月28日(木) 午後6時30分～午後8時20分  
■場 所 太田市役所10階 政策推進会議室  
■出席者 秋山委員、青木委員、窪田委員、新藤委員、高倉委員、棚澤委員、  
塚田委員、徳永委員、西村委員、半田委員、福田委員、増田委員、  
小林企画政策課長、田中課長補佐、奥川係長代理、小川主任  
(委員12名、市4名)

### 【概要】

#### 1. 挨拶

- ・小林企画政策課長が協議などに先立ち挨拶を行った。

#### 2. まちづくり基本条例について

- ・田中課長補佐が「まちづくり基本条例」について説明した。
- ・まちづくり基本条例は、平成17年3月の合併を契機に、市民の権利と責任を明らかにし、「市民」、「市議会」、「行政」の協働により安心して生活できる環境と、豊かで優しいまちを実現するための基本的な事項を定めた条例である。
- ・条例の原案は公募された市民が作成し、平成17年10月に市長へ答申した。
- ・条例は平成18年4月に施行した。
- ・全14章、37の条文から構成されている。

#### 3. 太田市の観光振興について

- ・各委員が「太田市の観光振興」をテーマに意見を発表した。
- ・各委員の主な意見は次のとおり。
- ・観光地や文化財を徒歩や自転車のコースで結び、観光客誘致と市民の健康づくりを目指す。
- ・市内のサイクリングコースの状況は、城西小北から石橋十字路の区間は整備が行き届いていない面があるが、尾島方向のサイクリングコースは快適である。
- ・駅を活用した散策道の設定も考えられる。
- ・地元の商工会を中心に開催している太田夏まつりは、駅が高架になったにもかかわらず二分されたままになっている。
- ・太田夏まつりに日本の五大民謡とされている八木節を復活させたい。
- ・金山、管塩沼、東毛少年自然の家、八王子山周辺の情報を集約したマップを作成したらどうか。
- ・市内外の人、障がいのある人、花の好きな人などあらゆる人に太田市に来てもらい、地元の農作物や名物を味わってほしい。
- ・ユリ園を整備する計画があるが、太田市にはその期間に美味しい野菜がない。
- ・シバザクラとユリが咲く間の時期にスズランを植えたり、桜が咲いた後に楽しめるようライラックの並木を整備したらどうか。
- ・かつて呑龍様の沿道で子供用の小さなタイコを販売していたが、子育ての象徴として古いものを掘り起こし役立てることも考えられる。
- ・観光が何かということから話し合いをして、委員の意思統一をしたらどうか。

- ・太田市にとって観光振興はどのようなことか、観光振興に取り組む覚悟は如何なものか問いたい。
- ・まちづくりは2～3年でできるものではなく、50年～100年で取り組むべきである。
- ・行政の観光に係る部署は、太田市では観光振興は商業観光課で、文化財は文化財課である。また、群馬県の東部行政事務所も係っている。
- ・観光資源を有効に活用するためには、「人」、「物」、「金」が必要である。
- ・文化財課が所管している新田荘歴史資料館と高山彦九郎記念館で、6月6日の同日に講演会が予定されているのは非効率である。
- ・友の会、広報活動はどのようなものになっているか。
- ・山形県遊佐町や兵庫県加西市北条町に例があるが、子供のボランティアガイドを育成し活用したらどうか。
- ・子供のボランティアガイドを育成することで、子供が歴史や文化を学び、市に興味湧き、誇りや愛着を持つようになる。
- ・焼きそばの店を巡るスタンプラリーを実施したらどうか。
- ・焼きそばの店に観光パンフレットを備え付け、そばを焼いている時間に見てもらおうなど、小さな観光案内所として活用したらどうか。
- ・1%まちづくり事業の視察などで太田市を訪問する人がいるが、このような人を観光として取り込む必要がある。
- ・先人が残してくれた貴重な遺産を企業や学識経験者と連携し、バージョンアップすることが必要である。
- ・市民、行政、ボランティア、企業、学校などそれぞれの分野で協力をしてもらうことが必要である。
- ・全国にいる太田市出身の学生に本市をPRしてもらおうことができるが、地元で自慢できるようなものがない。
- ・金山と新田義貞だけでは人は呼べない。
- ・パンフレットは1回見ると捨ててしまい、必要な情報はインターネットで調べることが多くなっている。
- ・観光振興以外のテーマでは、隣近所との触れ合いが希薄になっているため、「新しい助け合いのまちづくりの構築」を希望する。
- ・できる限り太田市に人を呼び込むことが必要である。
- ・クリーン作戦などの清掃活動を利用して、日本一きれいなまちを目指す。
- ・太田市を訪れた人に対し、市民一人ひとりが温かくもてなし、訪れて良かったと感じてもらえるムードを作り上げることが大切である。
- ・九州を訪れた時、すれ違う小学生の誰もが挨拶する村があり、とても心地よかった。
- ・企業の協賛金などから祭を毎年開催するのは難しくなっているため、おおた夏祭りや新田祭は4年に1度、オリンピックの年に合わせて開催する。
- ・ITのまちとして強化し、PRしたらどうか。
- ・焼きそばグランプリを開催したり、桜やシバザクラの季節にまちを花で埋めたらどうか。
- ・具体的な議論を始める前に、委員の方向性を一致させる必要がある。
- ・様々なガイドブックが作成されているが、周知不足の面がみられる。

- ・現在行われている市の観光施策の説明が必要である。
- ・先進地視察や観光のまちづくりに実績を上げた人との懇談会も有効である。
- ・自然環境や文化遺産などの貴重な観光資源は、次世代に継承する必要がある「持続可能な観光」が求められる。
- ・新田地域の湧水地の見学会を実施しているが、地元でも湧水地の存在を知らない人がいることから、太田市の観光資源を再確認する必要がある。
- ・太田市の知識の検定試験制度を設けたり、問題を出して解答を募集ことで本市の理解を深めてもらうことができる。
- ・富士重工を主体とした講演会や見学会の実施など、市の経済活動を観光に有効活用する。
- ・大和芋、スイカ、大根、まこもたけなど地場産の食材を活用した名物料理を開発し、太田市に来たら安価で美味しいものが食べられるようにする。
- ・人が集まって交流することが観光に繋がると考えられる。
- ・5月30日に金山のガイダンス施設が開館するため、観光をPRするには絶好の機会である。
- ・太田市の顔は金山であると思う。
- ・平成23年の中頃には北関東自動車道が全線開通するが、太田市にはインターチェンジが2カ所ある。また、東武鉄道の急行停車駅が2カ所あるため、これらを有効活用する。
- ・年間観光客の目標を設定する必要がある。
- ・自然と市民が共有できるまちづくりを提案したい。
- ・近年、子育てにおいて母と子が建物の中に遊び場を求める傾向にあるため、自然の中で子育てができるようにしたい。
- ・児童館周辺には遊具はあるが、緑が少なくなっている。
- ・台風時に金山キャンプ場では松の木が折れ、バンガローが3棟崩れ、事務所に水が入った（危険な状態にある）。
- ・市民がキャンプをする時は、みどり市の小平キャンプ場や桐生市の梅田キャンプ場など、市外へ出て行ってしまう。
- ・野外活動に従事する団体だけでなく、一般市民や学校、育成会など幅広く利用できるキャンプ場があれば良い。

#### 4. その他

- ・会議の開催日を「毎月第4木曜日」から「毎月第3木曜日」に変更する。
- ・まちづくり市民会議設置要綱では、定例会は年4回開催することになっているが委員の希望があれば、この規定を改正することも可能である。
- ・奥川係長代理が北部運動公園で配布した「昔むかし ここは、上野祝入村という」の資料と伊勢崎市の観覧車について説明した。

#### 【次回の会議】

- ・日時 6月18日（木） 午後6時30分～
- ・場所 太田市役所10階 政策推進会議室